

●学校支援情報●

岡崎むかし館通信

<http://www.libra.okazaki.aichi.jp/16000.htm>

むかし館活用事例や郷土学習のヒントなどの情報を発信します。



元気な子どもらに負けないように、2学期もがんばりましょう！

むかし館のあれこれ

ー 活用・教材化へのヒント ー

<暑い夏を乗り切るための知恵と工夫>

「暑いですね！」が日常の挨拶がわりになっている昨今です。エアコン、扇風機などが一般的になっていない時代には、暑い夏を乗り切るために「道具」や「願い」に知恵を絞って工夫していたことが読み取れます。「陶枕(とうちん)」と「茅の輪くぐり」について紹介します。

ぜひ一度、実際に道具を使ってみたり、地域の行事に参加をすることで、昔の人の知恵と工夫を体感し、この感覚を今の生活に生かす工夫を子どもたちと一緒に考えてみましょう。

① 「陶枕」

陶磁器製の枕で、中国から伝えられたものです。中空になっていて中に水を入れたり、小石を入れたりして、動くと音がするようになっています。この枕を使用すると血圧が下がるなどと言われ、暑い夏には最適であったようです。



岡崎むかし館蔵

② 「茅の輪くぐり」

6月30日に行われている「夏越の祓(なごしのはらえ)」と言われるものです。茅には旺盛な生命力があり、神秘的な防災の力があると信じられてきました。そのために、暑さ本番の夏を乗り切るために茅の輪を八の字に左から右へとくぐり、願いごとをしながら茅の生命力を自分の体内の中へ引き込もうとする行為です。【N】



【能見神明宮】

(六所神社、伊賀八幡宮、新田白山神社、岡崎天満宮、菅生神社、龍城神社などでも開催されています。)

＜シシ垣＞

岡崎は石都として古くから良質な石が産出され、著名な石工も存在し、数多くの岡崎石工の石製品が全国に存在しています。今回は、名もなき人々が自分たちの生活を守ろうとして作り上げた「シシ垣」を取り上げてみようと思います。

岡崎市石原町周辺には板状の石(領家変成岩類)が出るため、これを積み上げたものを「シシ垣」「シシ囲い」と言っています。これは、大事な田をイノシシの害から守ろうとする農民の切実な願いと生きるための自衛手段であったようです。

このシシ垣ですが、いつ頃記録の中に出始めてきたのでしょうか。岡崎市では、中金村(現岡崎市中金町)の日吉神社文書「寛政四年(1792)田畑山崩川欠石砂入書上帳」の中に「猪垣」という記載が現れるのが現在のところ一番古いと思います。

シシ垣の分布は、南部、特に宮崎地域が分布の中心です。シシ垣の形態としては、2種類存在しています。石原町、宮崎町、明見町、片寄町を経て原に至る地域に集落と耕地を取り囲む大型のシシ垣(耕地・集落防御型)、これに対して、東河原町、大代町、雨山町、鳥川町、夏山町は耕地のみを囲む小型のシシ垣(耕地防御型)が存在しています。

材質は領家変成岩類が多いが、場所によっては材が異なるものも見られます。特に、小型で河川に沿う地域のシシ垣では河原の円礫が多く用いられています。男川流域では、檜山町から下流部にシシ垣は存在していないようです。北部地域では井沢町、毛呂町、鍛埜町、桜形町の5カ所の残存が確認できましたが、残存状態は良くないです。材は、花崗岩と片麻岩で、形態としては耕地防御型です。

シシ垣の分布(大型・小型、南部と北部のシシ垣の数)とイノシシの生態から当時の暮らしを探ってみましょう。【N】



明見地区 田代



大代地区 大窪・上大窪

夏休み期間にむかし館では、陶枕など「夏の道具」の体験講座と社会科自由研究相談会を開催しました。どのような自由研究作品がでてくるか、りぶらで開催する社会科自由研究作品展が楽しみです。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成25年9月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

【次回 企画展「楽しみの世界～レジャーの時代到来！」9/12～12/10】